

## クラブ奉仕研究会 in 鹿沼 2003 年 7 月 13 日 CICO 委員会

今日は、朝からご苦労様です。

RID2550 での初めての CICO の会議となります。

まずは、地区の DICO 委員会から紹介させていただきます。

DICO をさせていただいております私、鈴木宏です。宇都宮東 RC の小林正明君・宇都宮北 RC の亀和田信明君そして、今回お世話になりました宇都宮北 RC の CICO 野澤篤司君です。

最初に私の方からお話をさせていただきます。今日お話しすることやパワーポイントは、HP で見られますようにアクロバットに変換しておきます。

まずは、ノートは取らなくとも大丈夫ですから、皆さんで「IT」について考えていきましょう。

まず大切なことは、IT に対してのビジョンだと思います。これが見えてきますと、今何をしていけばいいのかがはっきり見えてくるのではないかと思います。

皆様に、アンケートをお願いいたしまして回答ありがとうございます。まだ、アンケートを出しておられない方が居りましたら挙手願います。信明君アンケートお渡し下さい。お昼の時間に回収させていただきます。私のアンケートは、皆さんに見ていただいておりますので紹介いたします。まず、パソコン暦は、3 年です。職業分類は、泌尿器科です。コンピュータの関連の仕事ではありません。

今まで DICO・CICO というシステムがロータリーにはありませんでした。当然、試行錯誤の連続です。何故、ロータリーに IT が必要になってきたのかを考えるための DICO かとも思っております。

気楽に、お話しをしていきたいと思っております。宜しく願います。

2000 年の頃、「IT 革命」という言葉が突然出てきました。「IT」という言葉は、インフォメーション・テクノロジーのはずですが、政府の公式用語は「情報通信技術」です。何処を見ましても「通信」のツの字も出てきていません。「通信」という言葉が前面に出てきたのは、旧郵政省の巻き返しのためではなかったのかとも囁かれております。「IT 革命」とは、インターネットのような情報ネットワークを利用した社会の到来を意味しているようです。しかし、IT 基本法も制定され、「IT は 21 世紀を切り拓く力」だ、「産業革命以来の大変革期」だ、「多様な情報と個性の沸き立つ知恵の社会への飛躍」だ、なんて大上段に言われてしまいますと、いささか困ってしまいます。この大転換を成し遂げる施策となりますと「今後 5 年以内に世界最高水準の超高速インターネット網にアクセス出来る様にする」ということが掲げられています。結局、政府の想像力不足なのでしょう。光ファイバーを引いて高速インターネットが利用できるようになって、それが何をもたらすか？何を意味するかの洞察がスッポリ抜けてしまっています。

私たちは、「IT」という言葉から、私たちに何をもたらすのだろうかを考えていかななくてはなりません。

しかし、高速インターネットが普及してきたからといっても、私たちの生活に何が変化

したのが実感として捉えられないのではないのでしょうか、いや、低廉・多様な情報入手が可能になり、さらに音声・動画を利用して楽しみが増えたのではないだろうかと言われませんが、この程度のメリットなら、何も IT にお願いする必要は無いと思います。官主導の IT 革命の最大の欠点は、「IT 革命が進展して、一体私たちの暮らしに何のメリットがあるのか」の想像力が欠如していることだと思います。

ここで考えなくてはいけないのは、何故アメリカで IT が発達したのかということです。「IT 以降」の目覚ましい動きもありますが、実は「IT 以前」の要因が大きいことに着目しなくてはなりません。

サンフランシスコ・ロサンゼルスと続いた地震の時、高速道路が封鎖され、テレコミュテング即ち「通信手段を駆使し、在宅などで仕事をする事」を実施せざる得なくなった。

10 数年前アメリカは、不況の真っ只中でした。当然企業はリストラ・ダウンサイジングを実施せざる得ませんでした。オフィススペースは厳密に吟味され、結果的にこれも、テレコミュテングを進展させました。

キャリアウーマンの増加は、自ずと高速道路の混雑につながり、通勤環境は悪化するばかりでした。1960 年代に制定された「フェデラル・クリーン・エア・アクト」大気汚染防止法という法律を元に、南カルフォルニアでは、大企業にテレコミュテングを進めるか、自動車による共同通勤を義務付ける動きさえ起こってきました。

人々の意識も変革期に差し掛かってきていました。団塊の世代も中年になって、いかに「ファミリーフレンドリー」な働きを追求するかに価値観を変えてくるようになりました。

要するに、「IT 以前」のアメリカでは、「社会」「企業」「価値観」にそれぞれ軋みが生じ始めており、それをどのように調整していくかの時代的要請 - 「見えざる手」の存在があったと思います。このことが IT のインフラに大きな役割を演じた物と考えられます。

この時代的背景・必然性が、日本では見られません。働き方の変化・企業改革を伴わないところに、たんに上乘せしたに過ぎないように見えてしまうのは私だけではないと思います。

今お話ししましたように、アメリカの IT 革命には、「見えざる手」が先導しておりました。

そこには必然性があり、結果的に生活に

根ざしているだけに、「ウェブライフスタイラー」という人が生まれ始めました。日本では、ネットが注目され始めた頃は、主役は、理系・技術系主体の「ネットワークャー」といわれるオタクの人たちでした。今になって、おばさん世代を始め、やっと「普通の人々の IT 革命」が日本では起こり始めた段階かと思います。

数年前から 50 代以上の中高年女性が、IT 分野に進出始めています。これは、数年前の行政主導の「IT 講習会」がきっかけのようです。初めは、「またまた、税金の無駄遣いか」と思ったものですが、なかなかどうして。行政の行う IT 政策の中では、ヒット商品だったんですね。伝聞証拠ではありますが、IT 講習会を受講した後の彼女達の行動がすごいんです

ね。ワードやエクセルも多少勉強するんでしょうけれど、いきなり「実戦」に乗り出すんですね。彼女達の関心は「メール」にあるようです。この点、完璧さを求めがちの中老年男性とは違うんですね。もともとお父さん達より遥かに広いヒューマンネットワークを持っておりますので、見事にメールが当てはまったのでしょう。「ITおばさん急増中」という証拠は他にもインターネットでお店を開いている人たちも、「50代以上の女性の利用が増えている」と言っております。まさしく、「普通の人のIT革命」が来ているように感じられます。

ロータリーに於けます IT化は、まずそのビジョンを考えなくてはならないと思います。そのためには、IT化の歴史をまずは勉強しなくてはならないと思います。

RJW <http://www.rotary.or.jp/index.html> の「みんなのIT広場」に記載されておりますが、簡単にまとめてみましたので、プレゼンテーションさせていただきます。(パワーポイントを参照)

RJWの歴史も RJW <http://www.rotary.or.jp/index.html> のホームページの「RJWのページ」に RID2640 成川守彦 PDG がかかれておりますので後でどうか読んでください。

6月22日、名古屋にて第4回 DICO 全国会議が開催されました。ここで初めて DICO と RJW の関係者が集まりました。

日本のロータリーの情報システムの大きな基点となる会議になるであろう予感のします会議でした。

この会議に出席し、ここでの情報を得まして私の考えたことをお話ししたいと思います。

「情報の本質はなにか？」という命題が IT というものによって浮き彫りになってきています。

情報の本質は、「言葉」であり「文字」だと思います。ITによって情報の入手の形を激変させました。今までは、特定の人しか入手できなかった情報は、誰にでもオープンになったに均しいと思います。従来は情報源を握ったりいち早く情報をゲットする「情報時差」で「権威」を自称できましたが、これまた怪しくなってきました。しかし、大切なのは、高度な情報にアクセスできるようになったのは良いのですが、これをどのように料理していくのか、それには「ロータリー」に対します理解をしていなくてはならないのではないかと思います。リエゾンとしての DICO・CICO は、「ロータリー」の勉強をして「情報」を提供していかななくてはならないと思います。最後に時間がありましたら、「初期ロータリーの話」をさせていただきたいと思います。

「DICO ってなんだろう」という命題がありました。

RJW 委員会規約が 2003 年 4 月 1 日に改定されました。その中で、

第二条[RJW 委員会]の中で、(ホ) 地区委員 DICO 地区ごとに一名と記載されています。また、第八条[地区委員]にはこの様に記載されております。地区委員 DICO は各地区より一名づつ該当年度のガバナーの委嘱により選任される。地区委員の任務は次の通りである。

(イ) ガバナーへの連絡

(ロ) ガバナーおよびその地区内会員からの意向伝達

(ハ) 地区 HP の管理更新を補佐、助言する

(ニ) ロータリアンへの web 普及促進

と書かれております。

また、色々な意見が出ておりました。RID2830 関場慶博 PDG・DOC0 からこんなお話しがありました。DICO とは、IT の知識を身につけ IT を理解し、ロータリーに対する知識を学び、IT は単に手段にすぎないのだから、IT を広めることは無いし、もし、必要とすれば、地区の「IT 推進委員会」がやればいいんだ。チョット待てよ。私たちの地区には、「IT 推進委員会」なんて無いじゃないか。まして先ほどもお話しいたしましたが、RID2550 は全国的にみましても IT 後進地区です。今年度は、DICO 委員会で兼任せざる得ない状況と思いました。

「情報の方向性について」果たして情報は一方通行で良い訳がありません。

では、この流れをどのようにしていけばいいんだろうか考えてみました。ロータリーの 1 つの守らなくてはいけないものに「例会出席」があります。「入りて学び、出て奉仕せよ」という言葉があります。例会で高められた奉仕の心を持って、それぞれの家庭・職場・地域社会に帰り、奉仕活動を実践することです。これが、理想とされるロータリーライフです。その例会での行事を - 卓話のテーマを皆さん他のクラブではどのようにやっているのか即座に情報として手に入れられたらどうでしょう。メーキャップする時もあそこのクラブでは、どんな話しがあるんだろうと興味を持つことが出来ると思います。それが、携帯電話の i-mode で見られるようなシステムを宇都宮北 RC の CICO の野澤篤司君に構築していただきました。

CICO の皆さまが HP の入力画面から「例会予定」を入力していただけたらと願っております。RJW にもリンクをお願いしたいと思っております。後で、野澤篤司君にプレゼンテーションをお願いしております。自分達の欲しい情報を自分達の手で作っていくことも大切なことと思います。

RJW について文字として残っていないことをお話ししたいと思います。RJW は、ガバナー会の承認にて作られたもので、年間予算は、

ガバナー会から 280 万円くらいの予算で運営されておりました。

3 年間経ちましたのでガバナー会から一人立ちしなくてはならないのですが、先立つ物が無いということで、「ロータリーの友」より今年度は、600 万円の寄付がありました。これは将来を見据えたことと理解できます。RJW は、ボランティアで運営されております。

東京北 RC の横山義文君、彼は、今年度自分のクラブの幹事も兼任とのことです。ロータリー暦 10 年だそうです。千葉の大多喜 RC の浅野正明君。そして、東京 RC の松岡信雄君が RI からの情報を翻訳されております。80 歳を越すベテランのロータリアンです。この三人のかたの不休不眠のご努力で RJW の HP が運営されております。

かたや、「ロータリーの友」は、購読料一人 200 円、実際一冊 230 円位のコストだそうです。しかし、皆さんご存知のように広告が掲載されております。よって年間 3000 万円の黒字だ

そうです。また、

貯金は4億を超えるものがあるそうです。RJWの運営には、ボランティアを止めると年間3000万円かかるそうです。内人件費として1000万円を見積もっているようです。この一年間は、RJWと「ロータリーの友」のお見合い期間のようなもので、来年はどのようになるのか見ていきたいと思っております。さて、かたやボランティアでもう一方は、給料取りです。違和感は避けられないのではとも思われます。板橋敏雄RI理事は、「ロータリーの友」の購読料200円に20～30円を乗せてRJWの運営費にしたいと考えていらしゃるようです。また、9月28日にDICOの今年度の全国会議が東京で開催されます。新しい情報は、出来るだけ早く皆様にお届けしたいと思っております。

では、ロータリーに於けますIT化のビジョンとは何かお話ししたいと思います。皆さん目を瞑ってください。

日本では、五月の連休前桜前線も北へ移動していこうとしている頃、全世界のロータリアンは、パソコンの前に座ってシカゴで三年に一度開かれる規定審議会のインターネットによる中継を見ていました。次々と制定案が討論され決まっていっております。「職業奉仕」についても審議されております。提案者は、RID2550からのものです。21世紀に相応しい「職業奉仕の倫理訓」が採決されました。壇上に居りますRI会長が大きく画面に映されております。RID2550の板橋敏雄さんが笑みを浮かべてうなずいております。2001年の規定審議会でIT化が謳われてから数年経っております。

この数年間で、日本のロータリーのIT化はどんどん進み、ホームページを介して地域との交流も進み、ポリオ・プラスの運動もロータリアンだけではなく、地区の方々からも理解を受け、オンラインによる寄付金の増加がロータリアンだけの寄付金よりも多くなってきています。

ガバナー事務所からの連絡もメールで発信され、幹事は、必要事項を書き込み、ガバナー事務所にメールで返信ができるようになりました。幹事の部屋を覗いてみると、昔は、書棚にロータリーの関係の事務文書のファイルが所狭しと置いてあったものが見当たらず、机の前には、パソコンが一台置いてあります。

何をしているんでしょう。机に向かって、会社の今日の仕事の報告を見ているようです。彼の会社では、社員が色々な現場に行って帰ってくるのが一定ではないようです。今日の取引先での仕事と問題点をメーリングリストで書いてきています。現場の写真も載っています。どのように指示をだそうかと考えていると、別の社員から、その件でメールが入ってきています。「そうだ、それでいい」時間と場所を選ばず家庭で用件が済んでしまうようになりました。「体が楽になったよ」とお茶を運んできた奥さんに話しかけています。「明日のお昼一緒に食事しない。実は、益子RCで聞きたい卓話があるのよ。」I-modeでアクセスすればどのクラブでどんな卓話が予定されているのか即座に分かってしまいます。「じゃ一緒に行ってみようか。」ということになります。

2003年RI会長のマジアベさんの提唱した「ロータリー家族委員会」から、ロータリアンの

家族も一緒に例会にオブザーバーとして出席するのが普通になっていました。

地区のある委員会の会議がやはりメーリングリストを使って行われております。会員増強委員会のようです。2001年の規定審議会で認められた「サーバークラブ」が、最初に来ましたのは、コロラドの e-club でした。

<http://www.rotaryclubone.org/index.html> その後、RID2550にもサーバークラブが誕生し、時間と場所の制約のないメーキャブが出来るようになり、それだけが要因ではないのでしょうが会員の増強が楽になりロータリアンが増えてきているため、新しいクラブを作らなくてはとの意見交換のようでした。サーバークラブでのメーキャブは、色々な奉仕活動の中から、1つの論文を選んで、読んだあと意見を書き込まなくてはなりません。また、インターネットでの討論会に参加してもいいのですが、二つとも、要する時間は、最低でも、例会時間の60%に当たる40分間は必要とされております。一つ一つの論文が、ロータリーに対します理解を深めるのに非常に有効なため、また、自由討論は、対象が全世界のロータリアンのため非常に有効にロータリアンの質を高めていったようです。知らないことを知っていくことにより、実際、例会の出席率が向上し、実のある例会運営が出来るようになったようです。

奉仕活動に於きましても、青少年に対します活動が、インターネット上で討論され、さて実行という時に他のクラブのロータリアンの参加が得られたり、NPOの参加も多くなってきました。そして、協力したNPOが継続事業としてその奉仕活動をしてくれることにより、クラブは、また新しい奉仕活動を見出して毎年新しい物に挑戦していくようになりました。そして、「ブロークン・ウインドウ理論」に基づき街の中で落書きやゴミの投げ捨ての写真が地区のHPに投稿されますと、地区の社会奉仕委員会は日時を決めて、ロータリアンとNPOの協力と地方自治体で雇った制服を着た浮浪者そして学生達と落書きを消しに行くようになっていました。これにより犯罪の減少がもたらされ、RID2550は全国でも類を見ないすみよい街になってきております。

こんな中、規定審議会で、「サーバークラブ」が地区の委員会により運営することに決まり、ロータリアンの教育の重要な物と意義付けられました。ガバナー補佐によるクラブ協議会もITを利用可能となり、時間的にゆとりが出来るようになりました。

皆さん、ご苦労様でした。

「ITの歴史的意義」について、最後にお話したいと思います。

21世紀は、「向かい合う」関係の時代だといわれております。

上から下への縦の一方通行ではなくヨコの対等な「向かい合う」

関係に変わってきています。ITの普及がこのことをバックアップし推進しています。

第二に、情報化・グローバル化の進展です。一方的に情報に従うのではなく、お互いに「良いとこ取り」で進展させることが可能となっていると思います。ITの主役は個人です。情報と情報との新しい結合からは、新しい知恵や知識が生まれてきます。

時は、「回帰」の時代です。

松下幸之助は「バス一台」の世界を語っていました。バス一台分すなわち 50 人位で働いている時は、回覧板はいらないし、会議を開く必要も無かった。社長以下全社員がほぼ同時に同じ情報を共有できたと語っております。だから、みんなの気合が揃っていた。これからは、IT によって情報を共有し、共鳴運動を起こして新しいエネルギーを生み出していくことが大切であると思います。

IT という新兵器を使うことは、このバス一台の理論とこの本質は同じ世界と思います。IT が元に戻るという回帰ではなく、螺旋階段を上っていくように回帰する動きが見られると思います。

情報が多すぎて苦しめられないように、私たちは情報を選択していかなくてはなりません。それだけ、ロータリーに対します知識を身につけなくてはなりません。IT 革命は、これまで忍び寄る目に見えにくい変化でしたが、「向かい合う」関係の時代という素地に、情報化・グローバル化という第二の素地が、IT という途方も無いツールと結びつく複合作用によって生じますエネルギーは着々と蓄積され、歴史の駆動力が顕在化する実りの秋は近いのではないかと思います。

来年は、地区に「IT 推進委員会」を作ってください、各分区ごとに委員を選んでいただき、IT 化の後に続くビジョンを見据えた活動が出来ればと思っております。

今年は、オフミ：オフ・ミーティングを開いてメールだけでなく直接お会いして色々なお話が出来ればと思っております。

坂村真民の詩に、今という題で、こんな詩があります。「大切なのは かつてでもなく これからでもない 一呼吸 一呼吸の 今である」こんな思いを込めてオフミを楽しみにしております。

また、DICO からの情報は、しばらくは、双方向のメーリングリストを使っていきたいと考えております。DICO・CICOの役目は情報の一方通行ではありません。この辺のお話しも後で説明いたします。

地区の情報も是非流していただきたいと考えていたのですが、現在では、地区のクラブのCICOは25名しか、アンケートに答えていただけませんでした。全てのクラブにCICOがない現在、不平等になるとのことで、発信できないことになりました。

ロータリアンの皆様に、IT に如何に興味を持っていただけるかということも考えなくてはなりません。各クラブでHPを開設していただけたらと思います。立ち上げるのは大変ですから、原稿の入力だけで簡単に出来るように雛形を用意しましたので、今日ご紹介いたします。低コストで可能と思います。会報も掲載可能です。クラブ内の会員に対して興味を持っていただけるようになればと思います。また、クラブ外におきましても他のクラブのロータリアンに対しての情報だけでなく、地域の方々への発信が可能になると思います。クラブにお帰りになりましたら是非、ご検討下さい。

Rid2550.com を今回ドメインとして取りましたが、その後で、ドメインのとり方についてもお話したいと思います。

JRIC：全国ロータリアン・インターネット協議会へのご参加を期待いたします。年会費は、2000 円です。

最後に、坂村真民の詩を紹介いたして午前中の私の話は終わりにいたします。

光と闇

「光だ 光だという人には いつか光が射してくる

闇だ 闇だという人には いつまでも闇が続く」